

久喜市がん検診推進標語

「自分のため 家族のためにも がん検診」

がん検診を受けていますか

がんから身を守るためには、「早期発見・早期治療」が大切です。職場検診や人間ドック、市の検診などを利用して、定期的ながん検診を受けましょう。問合せ 各保健センター成人保健係（中央・☎21・5354 / 菖蒲・☎85・7021 / 栗橋・☎52・5577 / 鷲宮・☎58・8521）

胃がん

日本人が最もかかりやすい

胃がんは、日本人に多いがんです。近年、胃がんの死亡率は減少傾向にあります。まだまだ油断できません。

●市の胃がん検診（集団検診）

対象 40歳以上（平成26年3月31日時点）の市民

方法 問診、エックス線撮影（バリウム）

①発泡剤を少量のバリウムで飲みます。



胃がん・肺がん検診車の様子



胃がん検診車の内部（撮影台）

胃が膨らんでくるので、ゲップが出やすくなります。検査終了まで、ゲップは我慢しましょう。

②バリウムを飲みます。

③撮影台に立ちます。撮影台が少しずつ倒れます。

④放射線技師より、撮影台の上で仰向けやうつ伏せ、体を左右に回転させるよう指示があり、さまざまな角度から撮影を行います。途中、うつ伏せで頭を下げる姿勢もあります。

⑤撮影台が立って止まったら、検査終了です。

肺がん

禁煙が最大の予防法

肺がんにかかる人は、40歳代後半から増加し始めて、高齢になるほど多くなります。

●市の肺がん検診（集団検診）

対象 40歳以上（平成26年3月31日時点）の市民

方法 問診、胸部エックス線撮影

※ヘビースモーカーなどのハイリスクの方は、喀たん検査もお受けください。



大腸がん

最近増加しています

大腸がんは、食生活が欧米化した日本で増加傾向にあります。大腸がんが

※検査後は、検査会場で下剤を内服し、バリウムが速やかに体外に排出されるように、たくさん水分を摂ってください。

※バリウムの検査は、バリウムによるアレルギーや、腸閉塞、消化管穿孔等を起こす危険性がありますので、既往歴によっては、受診できない場合があります。

前立腺がん

急激に増えています

前立腺がんは、欧米に多いがんですが、近年、日本でも急激に増えています。

●市の前立腺がん検診（集団検診または個別検診）

対象 50歳以上（平成26年3月31日時点）の男性

方法 問診、血液検査（血中PSA〔前立腺特異抗原〕測定）

子宮がん

頸がんは、若い世代で増えています

子宮がんには子宮頸がんと子宮体がんがあります。

◆子宮頸がん

子宮頸がんは子宮の入り口である頸部の上皮（表面の細胞）から発生します。ヒトパピローマウイルス（HPV）の感染が関係していると言われ、近年では20歳代の増加が目立ちます。